

国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア（思考力・判断力・表現力等）	イ（知識及び技能）
【読む能力】文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えをもつこと	【書く能力】自分の考えを明確にし、考えが伝わるように書くこと

	児童の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
低学年	<ul style="list-style-type: none"> • しっかりした姿勢を保ち、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。 その他 • 自分で文を読み、内容を正しく理解することについて個人差が大きい。 ア • 伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ児童がいる。 イ • ひらがなやカタカナ、漢字を正しく読んだり、書いたりすることについて個人差が大 	<ul style="list-style-type: none"> • 聞く力を高めるために、話を聞く姿勢（体を向ける・目を見る）や態度の指導を徹底していく。 • 内容を正しく理解するために、明瞭な発音で文章を読み、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をする習慣を身に付けさせる。 • スピーチの活動を取り入れ、接続語を適切に使いながら、順序立てて話すことを意識させる。 • 日記や感想などを書く活動を取り入れ、思ったことや伝えたいことを書くことを意識させる。 • 視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を 	<ul style="list-style-type: none"> 通年 単元ごと 通年 通年 通年 	<ul style="list-style-type: none"> • 話の聞き方について徹底して指導することにより、相手の目を見て話を聞く習慣が身に付いてきた。 • はっきりと発音し、句読点や「てにをは」に気を付けて音読をさせることで、言葉の意味を確認しながら文章を読むことができた。 • スピーチをする際、順序を意識させることにより、順序立てて話すことができるようになってきた。 • 年間を通して日記に取り組みせ、自分の伝えたいことを分かりやすく話したり書いたりできる児童が増えた。 • テストやドリルなどを活用して、間違い直しに粘り強く取

	<p>きい。 その他</p>	<p>身に付けさせ、書いた文章を読み返すことを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> •「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版 東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を朝学習（ぐんぐんタイム）時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 •家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書き等の習熟を図る。 •朝読書や図書的时间を通して、本に親しむ機会を増やし、語彙力を高める。 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	<p>り組ませたり、本に親しむ機会を増やしたりすることで、文字の習熟を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> •朝学習（ぐんぐんタイム）を活用し、漢字の読み書き等の習熟を図ることができた。「東京都ベーシック・ドリル」「ミライシード」の活用については、時間設定が今後の課題になっている。 •朝読書や読み聞かせ、図書の時間、宿題等本に親しむ機会を設けることで、作文などの表現が以前より豊かになった児童が増えた。
<p>中学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> •文の構成を意識し、要点や起承転結を意識しながら教材文を読むことに課題が見られる。 ア •文章の表現を受け取り、イメージすることが難しく、自分の考えや気持ちを文章に表す 	<ul style="list-style-type: none"> •文章の読み取り方（文章の構成「はじめ・中・終わり」や登場人物の気持ちの変化や行動の読み取り、接続詞等）の指導について、教材にしかけを作り、主体的に教材に関わり、自然と読み取り方が身に付くように指導する。 •朝読書や図書的时间を通して、本（学習まんがを除く）に親しみ、言葉や豊かな表現に触れる機会を増やす。 •国語の各単元に関連する読み物について触れ 	<p>単元ごと</p> <p>通年</p> <p>単元ごと</p>	<ul style="list-style-type: none"> •場面や段落といった文章の構成を指導し、文章をまとまりで捉えることができるようになった。また、登場人物の気持ちや行動の変化を心情曲線や絵、台詞などに具現化することにより、何が大切なところか意識しながら教材文を読むことができた。 •図書館司書の読み聞かせやブックトークなどにより、物語

	<p>ことに課題が見られる。イ</p> <p>・音読、漢字の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。しかし、書き取りの習熟には個人差が大きい。</p> <p style="text-align: right;">その他</p>	<p>る機会を増やし、本のおすすめカードを書く等の活動に取り組む。</p> <p>・家庭学習の習慣化、漢字テストで再テストを行うなど繰り返し取り組む機会を設け、漢字の読み書きの習熟を図る。</p> <p>・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」「ミライシード」を朝学習時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>	<p>に対する感想を交流することができるようになった。読書旬間では、おすすめカードを書く等の活動に取り組むことにより、自分の考えや気持ちを文章に表せる児童が増えた。</p> <p>・小テストの振り返りや繰り返しの漢字指導を行い、「書けた」「読めた」が増え、意欲の向上につながった。</p>
<p>高学年</p>	<p>・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。ア</p> <p>・目的に応じて、文章と図表とを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方を考えたりすることに課題がある。ア</p> <p>・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。イ</p> <p>・漢字力、語彙力に個人差がある。その他</p>	<p>・文章を要約するために、それぞれの段落の内容を簡単にまとめる表を作成しながら、構成内容を確認する活動を取り入れる。</p> <p>・図表やグラフを読み取るとともに、文章と図表やグラフなどとを関連付けて読む活動を取り入れる。</p> <p>・文章全体の構成作りの中で、伝えたいことの明確化、事実、感想、意見などを整理する活動を取り入れる。</p> <p>・家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書きの習熟</p>	<p>单元ごと</p> <p>单元ごと</p> <p>单元ごと</p> <p>通年</p>	<p>・要点を使って、文章の要約を作成する活動を行ったが、あまり伸びを感じなかった。</p> <p>・文章と一緒に添付されている図絵の意味や効果を考え、図絵を使って、自分で文章を作成することができた。</p> <p>・文章構成図を作成し、どの段落の内容が重要であるか考え、文章内容を理解した上で、自分の考えを書けるようになった。</p> <p>・既習事項の漢字や語句の意味について、毎時間確認する時</p>

		を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。	間を設けたことで、テストの平均得点が上がった。 ・読書による語彙力向上には、継続的な指導が必要である。
--	--	---	--

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

低学年：ロイロノートで考えを共有する。

中学年：ロイロノートで考えを共有する。挿絵をタブレット端末で拡大して見て、より物語のイメージを広げる。

高学年：ロイロノートで自分の考えを表現し、学級全体で共有することにより、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を見付ける。

全学年：ロイロノートでそれぞれの考えを学級全体で共有することで、意見を比較することを習慣化し、考えを広める機会を増やす。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年：単元の始まりに、この単元ではどのような力が身に付いていればよいのかを共有し、学習の見通しをもたせる。

単元の終わりに学習の振り返りを必ず行い、身に付いていればよい力は身に付いているか、何ができるようになったのか自覚し、次の学習につなげていくようにする。